

主要地方道西郷都万五箇線特別県単（改良）事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

ニマ横穴群発掘調査報告書

平成12年3月

島根県西郷土木建築事務所

隠岐島後教育委員会

例 言

1. 本書は、隠岐島後教育委員会が島根県西郷土木建築事務所の委託を受けて、平成11年度に実施した主要地方道西郷都万五箇線特別県単（改良）事業にかかる埋蔵文化財発掘調査の報告書です。
2. 調査組織

調査主体	中林 弘	隠岐島後教育委員会教育長
事務局	斉藤弘徳	隠岐島後教育委員会社会教育課長
	藤原時造	隠岐島後教育委員会社会教育課主任
調査指導	島根県教育庁文化財課及び島根県埋蔵文化財調査センター	
調査員	横田 登	隠岐島後教育委員会社会教育課文化振興係長
	野津研吾	隠岐島後教育委員会社会教育課臨時職員
調査補助員	下川智史	隠岐島後教育委員会社会教育課臨時職員
	福島 宏	隠岐島後教育委員会社会教育課臨時職員
3. 現場における発掘調査及び遺物整理作業に参加された方々及び、遺物実測・写真撮影等にご協力いただいた方々に深く感謝致します。
4. 本書の編集、執筆は、調査指導の先生方と遺物実測者の指導、助言を得ながら、横田、野津が行いました。
5. 挿図中の矢印は真北を指します。
6. 本書中の高さはすべて海拔高で表示しています。

目 次

例 言

1	調査の経緯	1
2	位置と環境	2
3	調査の概要	4
4	おわりに	13

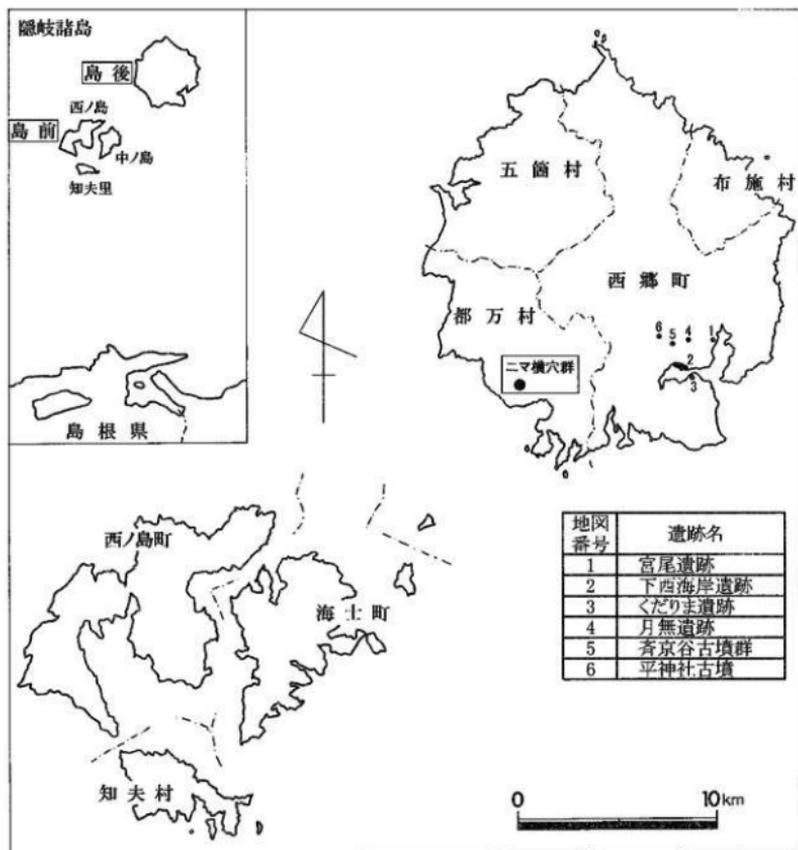
1 調査の経緯

ニマ横穴群は主要地方道西郷郡万五箇線特別県単（改良）事業にともない、都万村内の事業対象予定地について平成11年度に調査を開始しました。

事前の踏査の段階で北側・東側の斜面においてそれぞれ2穴ずつ横穴の所在が確認されていました。このため、調査は南西側斜面（グラウンド側）の横穴の所在を確認することから始まり、斜面及び西側尾根部に15ヶ所のトレンチ（試掘区）を設定し、調査を実施しました。その結果、ここでは遺構などは検出されませんでした。

その後、すでに開口している4穴（内1穴は未完成）の発掘調査を実施し、この4穴から土器・鉄器・玉類などの遺物が検出され、溝・屍床なども観察することができました。

この調査は平成11年11月から平成12年3月まで行われたものです。



第1図 ニマ横穴群の位置 (S=1/250000)

2 位置と環境

ニマ横穴群は、隠岐諸島の中の島後と呼ばれる島にあり、島根県隠岐郡都万村に所在します。隠岐諸島は、島根半島の北方沖合 50~80km に散在する 4 つの住民島と、大小 180 余の無人島からなっています。4 つの住民島は大別して島前、島後と呼ばれ、南西部に位置する島前は西ノ島、知夫里島、中ノ島の 3 島の総称です。島後というのは島後一島の呼称で西郷町、布施村、五箇村、都万村の 1 町 3 村で構成されています。島後は、群島中最大の面積(243 km²)をもち、ほぼ円形に近い形をしています。島の南東部、北西部にそれぞれ西郷湾、重柄湾が切り込みをつくっており、天然の良港となっています。

島の地勢をみると、最高峰大満寺山(608m)を中心とする山地は起伏がはげしく、それらが海岸まで続き、断崖絶壁の海岸線を造っています。その中で、北西部の五箇村、北部の西郷町中村、南部の西郷町平、南西部の都万村にはまとまった平地があります。ニマ横穴群は、この都万村に広がる平地の南部尾根上に位置しています。

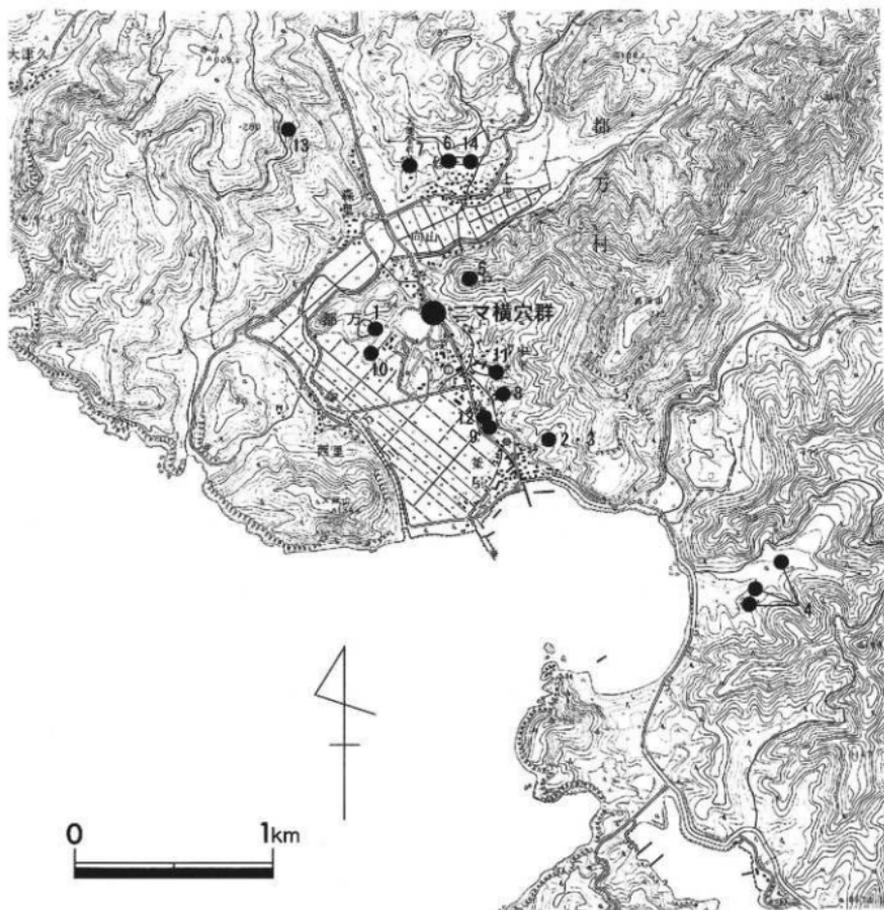
ニマ横穴群周辺には、多くの横穴群や古墳群が確認されています。ニマ古墳、釜田横穴群、鷹野古墳などがあり、他の時期の遺跡もありますが、この都万地区で周知されている遺跡の多くが古墳時代のものです。

島後の遺跡で見ると、縄文時代の遺跡のほとんどが西郷湾内沿岸部に所在しています。前期を中心とする遺跡として宮尾遺跡(西郷町東郷)が、西郷湾の東湾ともいうべき奥の小半島部に位置しています。時代が下るにつれて西方への移動が見られ、前期末から後期にかけての下西海岸遺跡(西郷町下西)、後期を中心とするくんだり遺跡(西郷町下西)などがあります。宮尾遺跡では条痕文土器や爪形文土器が見つっていますが、この条痕文土器は本土山陰側の佐太講武式に比定されるように、他の遺跡の縄文土器も、器形・文様等本土側と良く似た歩みが見られます。

弥生時代の遺跡は、現在までは非常に発見例が少ない状況ですが、月無遺跡(西郷町八田)が河川改修工事中に発見されています。遺構面は河床から 2m 下に位置し、土器片、石斧、石包丁と共に木製農具も見つかっています。

そして、古墳時代に入ると、前期の古墳はまだ見つかりませんが、中期から後期にかけての古墳が八尾平野の西側と南側の丘陵地帯に集中しています。早い時期の古墳としては京京谷古墳群(西郷町下西)があります。5 世紀代の円墳で径約 25m、鉄直刀・鉄鏃等が出土しています。6 世紀に入ると、小円墳が多数築かれるようになり、また前方後円墳も造られるようになってきます。島後最大の前方後円墳としては、八尾平野の西側に平神社古墳(西郷町平)があります。全長 47m、後円部径約 28m、高さ 5m の墳丘を持ち、くびれ部には横穴式石室が開口しています。7 世紀代には横穴式古墳も多数造られるようになります。

以上、ニマ横穴群の所在する島後地区の旧石器時代から古墳時代にかけて簡単に概要をのべてきましたが、奈良朝以降についても、八尾平野に条里制も確認されており、八尾平野の北側丘陵には国分寺・国分尼寺跡が所在し、離島とはいえ中央とほぼ同じ歴史の歩みをみせているといえます。



第2図 ニマ横穴群と周辺の遺跡 (S=1/25000)
 この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(都万)を複製したものである。

表1 ニマ横穴群と周辺遺跡一覧

地図番号	遺跡名	地図番号	遺跡名
1	釜田横穴群	8	鷹野古墳
2	井奥横穴	9	セバト古墳
3	井奥古墳	10	ニマ古墳
4	ネコ谷古墳群	11	都万小学校校庭遺跡
5	都万城跡	12	下鷹野古墳
6	御客古墳	13	千光寺跡
7	天建金草神社裏古墳群	14	井上古墳

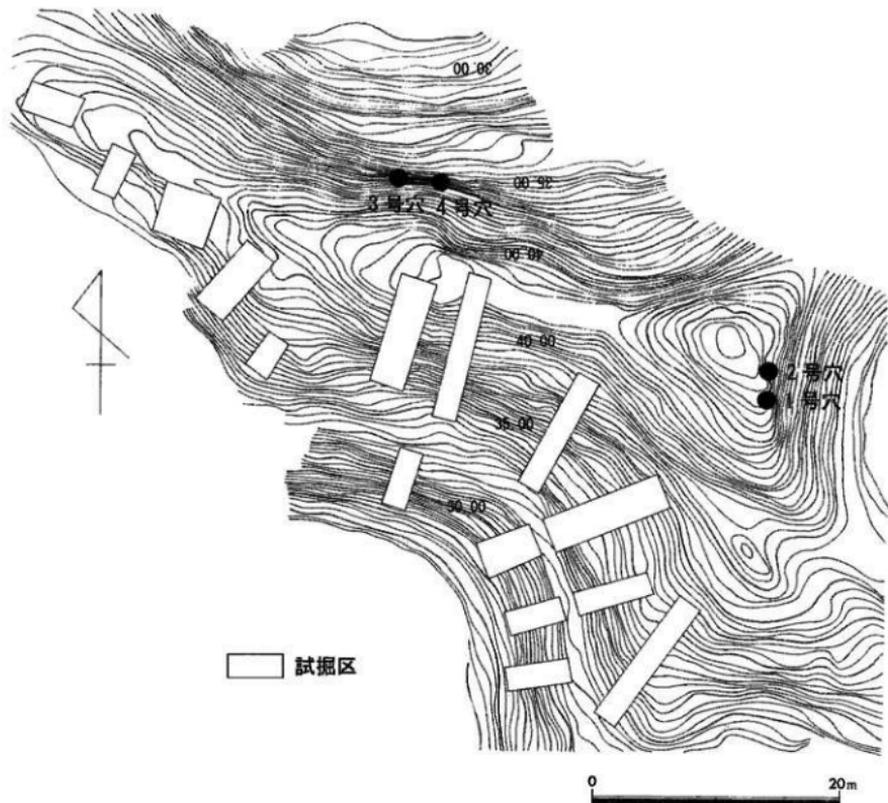
3 調査の概要

[試掘調査]

対象地の尾根北側と東側には、すでに4穴の横穴が開口していたので、南側斜面と西側斜面にかけて15ヶ所のトレンチを設定し、調査を実施しました。土層観察の結果、20cm程度掘り下げると岩盤が現れ、遺構などは検出されませんでした。

[本調査]

試掘調査では、南側と西側には遺構などが検出されなかったので、すでに開口している4穴を中心に本調査を実施しました。調査の便宜上尾根東側の2穴を1号穴・2号穴とし、北側の2穴を3号穴・4号穴として調査を進めました。この4穴は標高35~40mの尾根の斜面にあり、それぞれ東側・北側を向いて開口していました。4穴のうち3穴から遺構・遺物などが検出され、1穴は未完成のまま放置されたと思われます。



第3図 ニマ横穴群周辺地形図 (S=1/400)

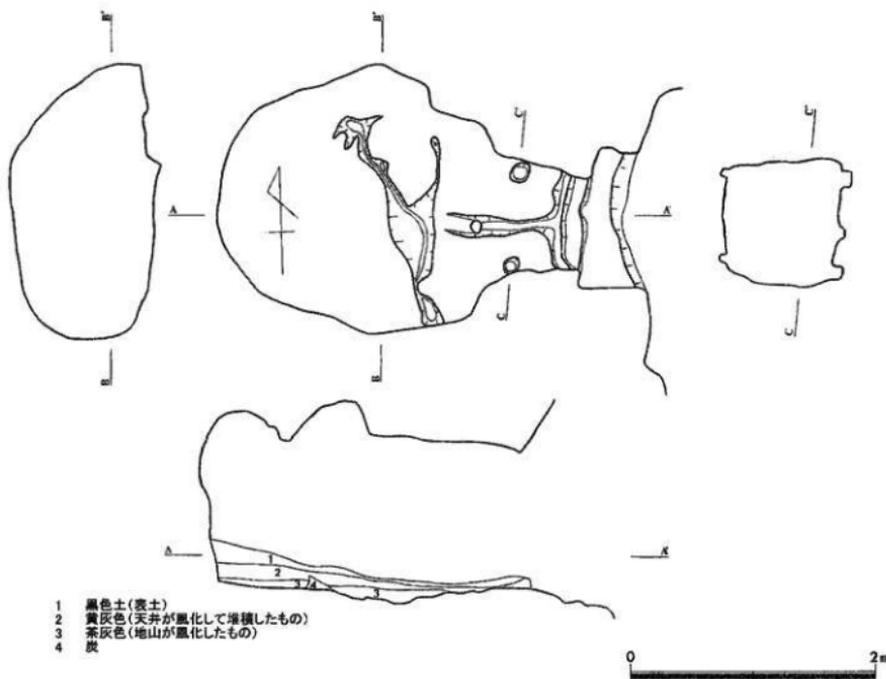
(1)遺構

1号穴

1号穴は尾根東側にあり、東向きに開口していました。調査では、羨道床面に溝、玄室入口付近に孔が検出されましたが、目立った遺物は検出されませんでした。

玄室 幅2.2m・奥行き2.0m。高さは1.4mの高さの玄門部からアーチ状に高くなり、中央でまた1.2mの高さに戻る。そして、再びアーチ状に高くなり、奥壁で1.2mの高さに戻っています。しかし、これは風化による天井の崩落後の形であり、もともとはドーム型の丸天井だったと思われます。床面も風化が激しく、加工痕などは検出できませんでした。

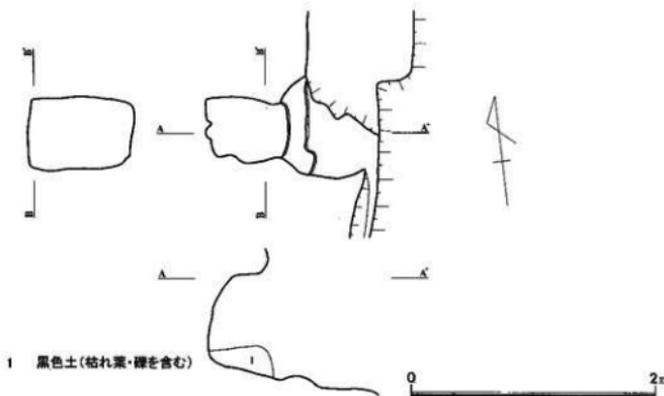
羨道 両袖式にのびる形で、奥行き1.0m・幅は玄室入口で1.1m・羨道入口で0.7mの、奥に広い形になっています。玄室入り口中央から羨道入口に向かって11cm下る溝が切られており、排水のためのものと思われます。そして、入口の左右、床面と天井のそれぞれ対応する位置に四角い孔が開けられていました。この孔は、床面のものが1辺10cm程度・天井のものが1辺5cm程度の正方形に近い形をしており、木或いは石で入口を塞ぐ時に利用されたものと思われます。



第4図 1号穴実測図 (S=1/40 L=41.00m)

2号穴

2号穴は1号穴の北隣に東向きに開口していました。幅0.5m・奥行き0.9m・高さ0.7mを測り、完全な横穴にはなっておらず、造りかけて途中で止めたものと思われます。途中で止めた理由もわからず、確かなところは不明です。掘削途中と思われる奥壁にはノミやタガネと思われる道具の使用痕が残っていました。



第5図 2号穴実測図 (S=1/40 L=42.00m)

3号穴

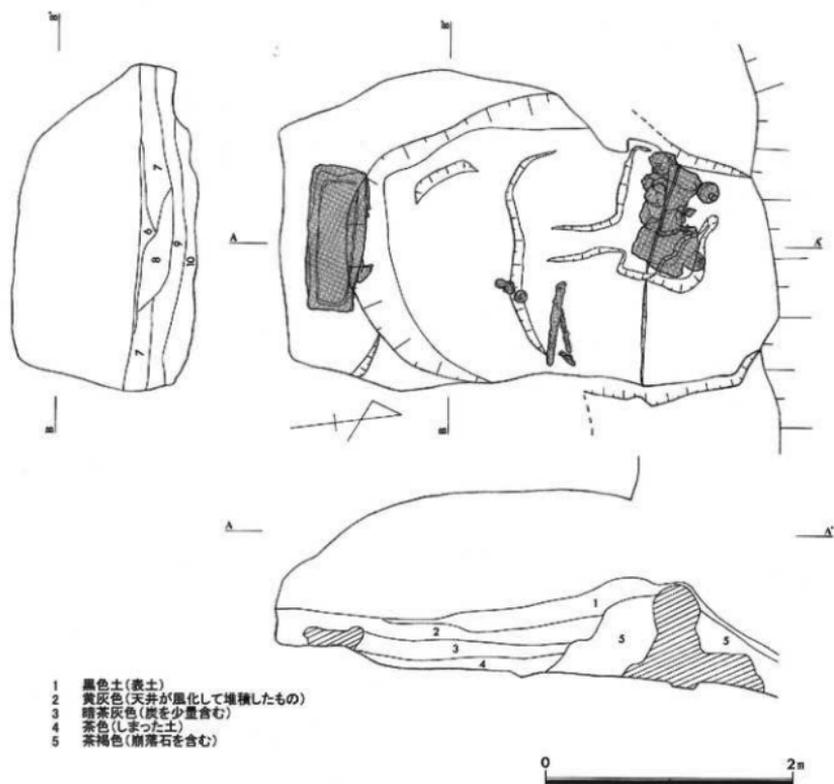
3号穴は尾根北側にあり、北向きに開口していました。4穴の中では一番大型のもので、玄室奥の中央部には屍床が据えられていました。また、玄室・羨道からは、土器・鉄器・玉類・閉塞石と思われる石が出土しました。

玄室 幅2.6m・長さ1.9m・高さは玄室入口で1.5m、中央部で1.4m、奥壁部で0.5mと下がるドーム型です。天井部は風化により原形をとどめておらず、西側の肩は家型でありましたが、東側の肩はドーム状になっていました。道具の使用痕なども検出されませんでした。壁面も風化が激しく道具の使用痕などは検出できませんでしたが、床面にはノミ等の使用痕が残っていました。奥壁側中央には屍床が据えられていました。玄室中央やや東寄りの床面には、須恵器の蓋坏・鉢が合わせて4点固まって出土しました。その付近の壁側には大刀などの鉄器が置かれていました。

屍床 幅1.2m・奥行き0.5mのもので、床面を削って造られたものではなく、外から運び込まれたものと思われます。屍床上に人骨や遺物はありませんでした。

羨道 東側の壁に沿って伸びる片袖式となっておりますが、もともと両袖式であったものが崩落により、東側入り口が崩れ片袖式になったのではないかということが、床面の状態などからうかがえ

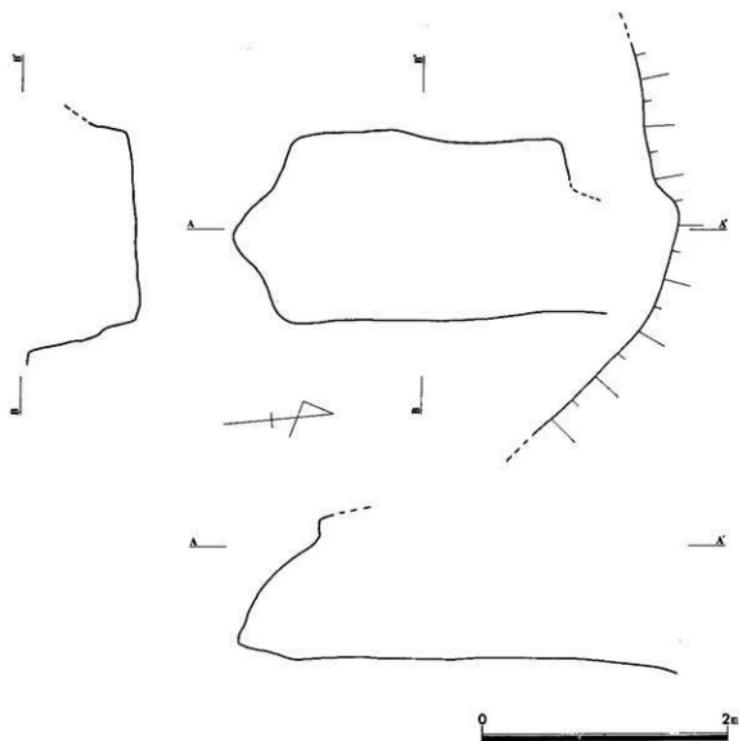
ます。長さは2.0m・幅は玄室入口で2.3m、羨道入口で1.9mの奥に広い形となっています。また、玄室入口中央から羨道入口に向かって溝が切られています。この溝が、崩落以前両袖式であったと思われる羨道の入口底面全体に広がっており、この部分に閉塞石がまとまって検出されました。羨道入口両端にはそれぞれ、須恵器の長頸壺と平瓶が置かれていました。



第6図 3号穴遺物出土状況実測図 (S=1/40 L=35.00m)

4号穴

4号穴は3号穴の東隣にあり、北向きに開口していました。入口から天井部にかけて崩壊しており、玄室の床面と奥壁のみが原形をとどめていました。幅は1.5m・奥行き2.7m・高さは残存部分で1mとなっています。遺物は堆積土の上層部から須恵器片が出土しましたが、これは外から流れ込んだものと思われます。

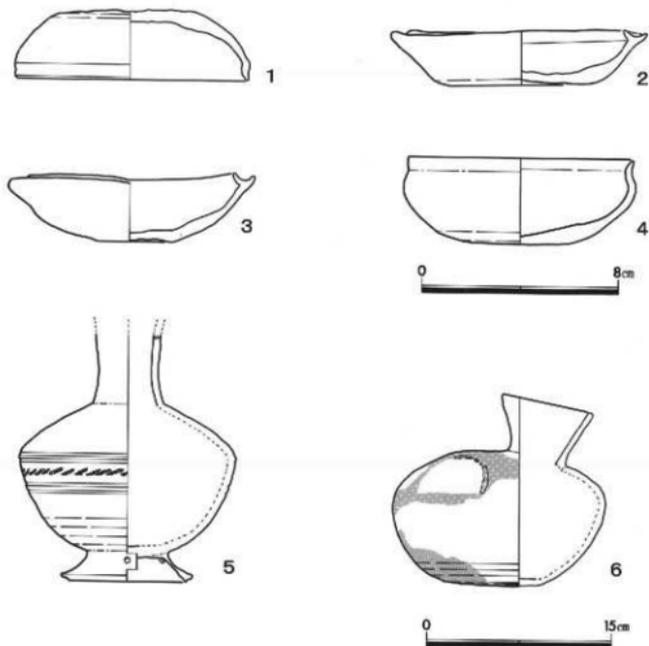


第7図 4号穴実測図 (S=1/40 L=35.00m)

(2)遺物

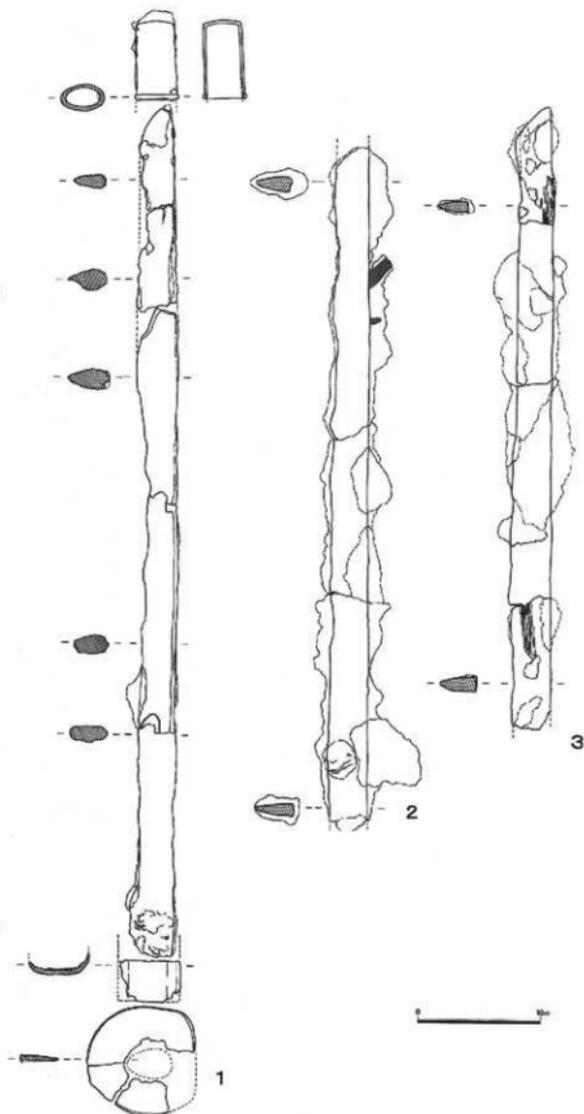
遺物として出土したものは、大半が3号穴からのものでした。羨道入口の両端にそれぞれ、長頸壺と平瓶が1点ずつ。玄室内からは須恵器が4点、大刀3本、鉄製品4点・玉類が1点出土しました。この他にも、須恵器の小片や大刀の剥離片などが出土しておりますが、本報告では図化していません。

第8図、1～3は須恵器の蓋坏です。口径は8～9cm程度の小型のもので、2・3は大きく歪んでいます。外面にはすべてヘラ削りが施されています。4は鉢です。5は長頸壺で、口縁部は欠落しており、脚部には3方向の透かしが施されています。6は平瓶です。器高15.6cm・口径7.2cmを測り、胴部に自然釉がかかっています。肩部には円形に須恵器片が溶着しています。



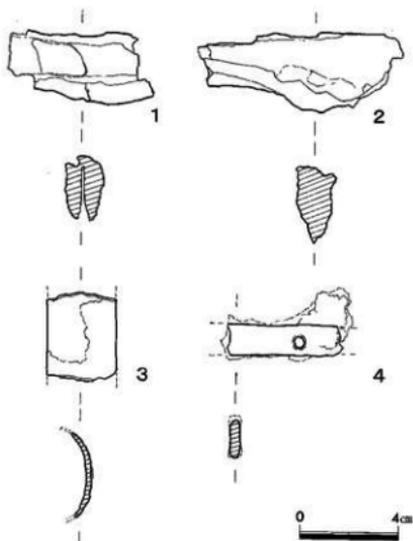
第8図 3号穴出土須恵器実測図 (S=1/2・1/4)

第9図、1～3は鉄製大刀です。1は、刀身部分で長さ72cmを測ります。加えて、鞘尻金具・鞘尻責金具・鞘口金具・鏢も残存しており、鞘尻金具・鞘口金具には精木の木質が付着していました。鞘尻金具内側には、端部まで木質が付着しており、鞘木が端部まであったと推定されます。鞘尻金具と精木の内径差による摩擦で固定される場合と違い、鞘尻金具口部で責金具によって絞め止め、固定したと思われます。責金具は、X線画像から鉄以外の素材が被せられていると思われます。外観上は不明確ながらも、金被せと見える部分がなく、鉄地銀被せと思われます。鏢は鉄製の無窓鏢。平面形は倒卵形で背側の角が張っています。縁部は側面からの槌打により肥厚しています。どの部分にも象嵌は観察できませんでした。2は銚と鏢の部分からが欠落しており、長さは55.6cmを測ります。背部には刀子と思われる鉄片が付着していました。3は銚も残存しており、52.5cmを測ります。



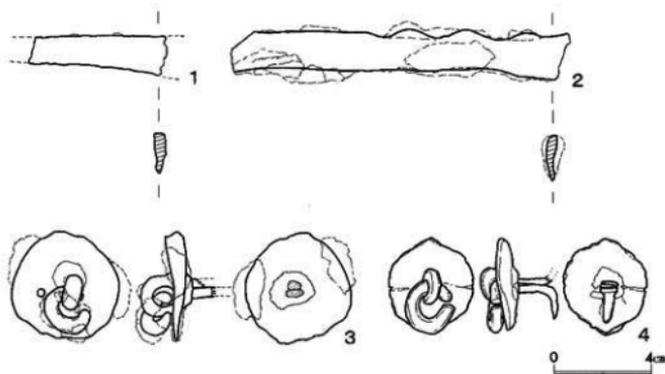
第9図 3号穴出土大刀実測図 (S=1/4)

第10図、1・2は大刀の刀身の破片です。3は鞘口金具です。第9図1の鞘口金具とは規格も違い、どの刀身との関係かわかりません。4は大刀茎部の破片で、6mmの目釘穴が開いています。これもどの大刀との関係かはわかりません。



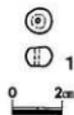
第10図 3号穴出土大刀片実測図 (S=1/2)

第11図、1は刀子片です。2は凹凸のある波形部分は生きていとみられ、刃物であるかどうかはわからず、何かの工具であったと考えられます。3・4は環座金具です。平面形は、3が粗雑な略円形、4が栗形に近く丁寧な成形です。厚さも3が5mm・4が3.5mmと明らかに別の素材から成形されています。3にみられる円孔は、機能的なものとは考えにくく、別用途のものとして穿たれた素材が、二次的に転用された可能性があります。3・4とも座金具の造りが異なる点と、遺存環境が大きく異なる点で差異があるものの、円環部と脚部が完全に同規格、同巧であり、組み合うものとして造られたと考えられます。3の脚先が欠損しているため断定はできませんが、打ち付けられた板材も同一の厚みをもったものであったと考えられます。これらは、鞍金具とも形態上近く、2点が一對となることも鞍金具に共通しますが、打ち付けられた板厚がわずかに13mmと薄いため、環座金具と考えられます。



第11図 3号穴出土鉄製品実測図 (S=1/2)

第12図、1はガラス製の小玉です。玉類の出土はこの小玉のみでした。製法は引き伸ばし法、色は紺青色です。表面・裏面ともに研磨されています。



第12図 3号穴出土小玉実測図 (S=1/2)

4 おわりに

今回の調査では、遺物の出土の大半が3号穴からということで、1・2・4号穴の築造の時期の判断は難しいものの、3号穴に関しては玄室内の出土遺物から6世紀半ばから7世紀初めと考えられます。そして、茨道入口の長頸壺・平瓶の年代が7世紀半ばから7世紀終わりであると考えられ、追跡が行われていた可能性が考えられます。

出土遺物に関しては、少量ではありましたが、別素材から作られた一対と思われる環座金具など、鉄製品の製造に関する貴重な資料が得られたと思います。

ニマ横穴群は、今回調査した4穴以外にも横穴が存在しており、まだまだ研究の余地が残っています。今後の調査によって、横穴群の性格やその頃の都万地区のようすを明らかにしていくことが、今後の課題といえます。

最後に、発掘調査及び報告書作成に関してご協力いただいた方々及び関係機関の方々に厚く御礼申し上げます。

出土遺物観察表

単位:cm・g

探検番号	図版番号	出土地点	種別	器種	口径	器高	胴最大径	底(踵)径	形態上の特徴	調整	色調	焼成	胎土
8図1	12	3号穴玄室	須恵器	坏壺	9.4	2.9	9.8			外底:ヘラ切り、回転ナデ 内底:回転ナデ	明灰色	良好	2mm程度の砂粒を少々含む
8図2	12	3号穴玄室	須恵器	坏身	8.3	2.2	10.5	5.9		外底:ヘラケズリ、回転ナデ 内底:回転ナデ	淡灰色	良好	1mm程度の砂粒を多く含む
8図3	12	3号穴玄室	須恵器	坏身	8.2	2.5	10.0	3.3		外底:ヘラ切り、回転ナデ 内底:回転ナデ	灰色	良好	2mm程度の砂粒を少々含む
8図4	13	3号穴玄室	須恵器	鉢	9.2	3.6	8.4	3.8		外底:ヘラケズリ、回転ナデ 内底:回転ナデ	灰色	良好	1mm程度の砂粒を多く含む
8図5	13	3号穴墓道入口	須恵器	長頸壺			17.4	9.3	胴部に4条の沈線・刺突文アリ。胴部に3方向の透かしアリ。	外底:ヘラケズリ、回転ナデ 内底:回転ナデ	暗灰色	良好	2mm程度の砂粒を多く含む
8図6	13	3号穴墓道入口	須恵器	平瓶	7.2	15.6	17.2	3.2	胴部に部分的に輪が分かる。胴部に内側に溝痕跡片が残留。	外底:ヘラケズリ、回転ナデ 内底:回転ナデ	明灰色	良好	2mm程度の砂粒を多く含む
探検番号	図版番号	出土地点	種別	器種	刀身部			基部			備考		
					長さ	幅	厚さ	長さ	口径	底幅		厚さ	目釘孔
9図1	14	3号穴玄室	鉄製品	大刀	72.0	3.5	1.7						木質残る
9図2	14	3号穴玄室	鉄製品	大刀	55.8	8.1	2.5						刀身のみ残存
9図3	14	3号穴玄室	鉄製品	大刀	52.5	5.6	1.2						刀身のみ残存
10図1	14	3号穴玄室	鉄製品	大刀片	6.0	2.9	1.5						
10図2	14	3号穴玄室	鉄製品	大刀片	8.3	3.3	1.5						
探検番号	図版番号	出土地点	種別	器種	長さ	幅	厚さ	目釘孔				備考	
									長さ	口径	底幅		厚さ
10図3	14	3号穴玄室	鉄製品	柄口金具	2.8	3.8	0.2						
10図4	14	3号穴玄室	鉄製品	大刀基部	5.1	2.8	0.7		0.6				
探検番号	図版番号	出土地点	種別	器種	刀身部			基部			備考		
					長さ	幅	厚さ	長さ	口径	底幅		厚さ	目釘孔
11図1	15	3号穴玄室	鉄製品	刀子	6.5	1.8	0.5						
11図2	15	3号穴玄室	鉄製品	不明工具状製品	13.8	2.3	1.0						
探検番号	図版番号	出土地点	種別	器種	長さ	幅	厚さ				備考		
								長さ	口径	底幅		厚さ	目釘孔
11図3	15	3号穴玄室	鉄製品	環座金具	4.5	4.4	3.1						略円形・穿孔アリ
11図4	15	3号穴玄室	鉄製品	環座金具	4.8	3.3	3.1						環形
探検番号	図版番号	出土地点	種別	器種	最大高	最大厚	孔径	重さ	材質	色調	備考		
												備考	
12図1	15	3号穴玄室	ガラス製品	小玉	1.02	1.04	0.20	0.20	1.24	ガラス	鉛青色	引き伸ばし	

調査地遠景
(西から)



調査地遠景
(西から)



調査地遠景
(北から)



調査前の状況
(南面)



調査前の状況
(横穴)



調査前の状況
(横穴)



作業風景



作業風景



作業風景



横穴の調査状況
(1号穴)



横穴の調査状況
(1号穴)



横穴の調査状況
(2号穴)



横穴の調査状況
(3号穴)



横穴の調査状況
(3号穴)



横穴の調査状況
(4号穴)



完掘状況
(1・2号穴)



完掘状況
(3・4号穴)



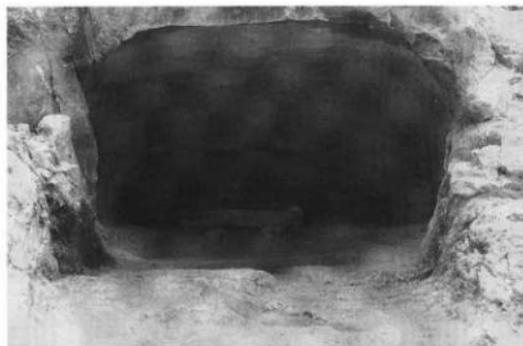
完掘状況
(1号穴)



完掘状況
(2号穴)



完掘状況
(3号穴)



完掘状況
(4号穴)



3号穴遺物出土状況



3号穴遺物出土状況



3号穴遺物出土状況



3号穴遺物出土状況



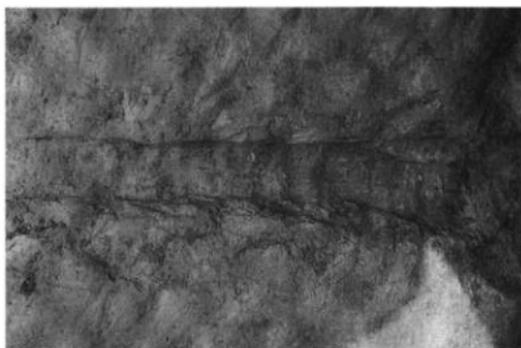
3号穴遺物出土状況



3号穴遺物出土状況



1号穴床面の溝



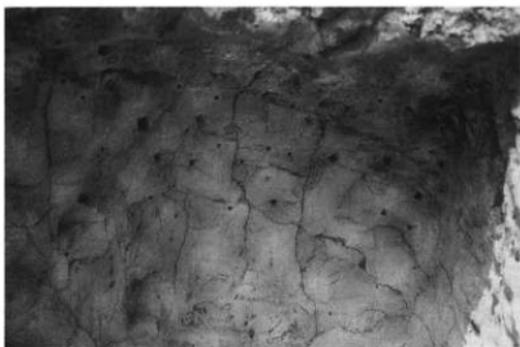
1号穴床面の孔



1号穴天井の孔



2号穴奥壁の道具使用痕



3号穴床面の溝



3号穴床面の道具使用痕



3号穴出土遺物



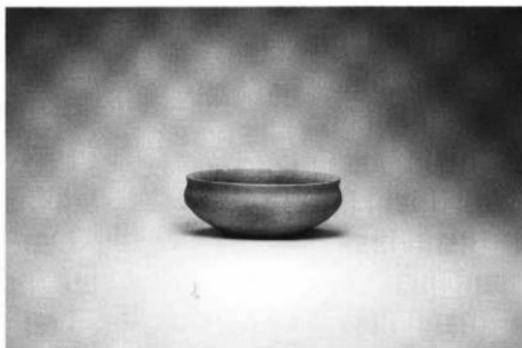
3号穴出土遺物



3号穴出土遺物



3号穴出土遺物



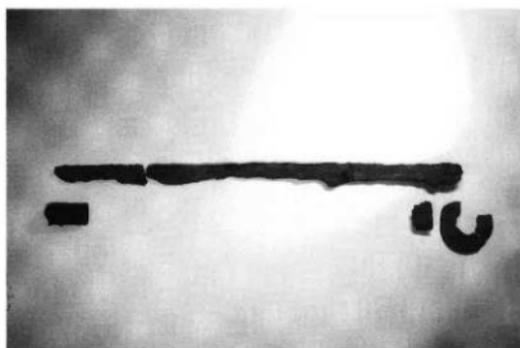
3号穴出土遺物



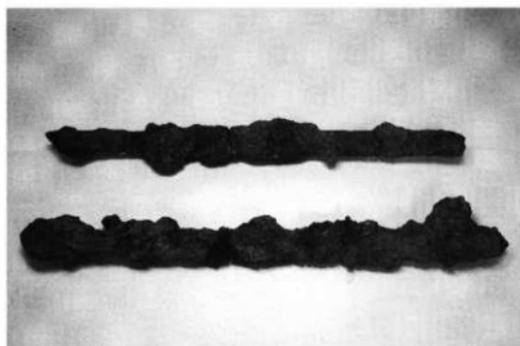
3号穴出土遺物



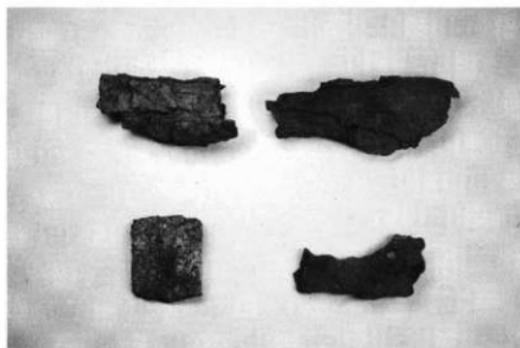
3号穴出土遺物



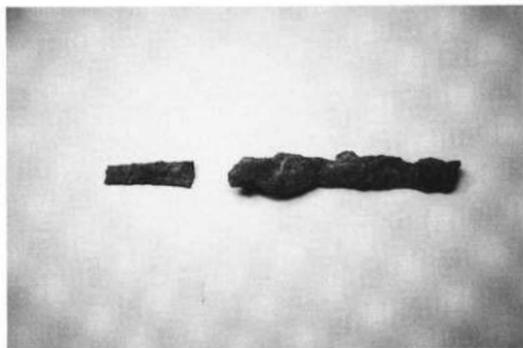
3号穴出土遺物



3号穴出土遺物



3号穴出土遺物



3号穴出土遺物



3号穴出土遺物

